

頼もしい子 ~心の宝物に満ちた学校~

プラス

令和5年6月26日

われら Team 高富 ~パパ+先輩ママ~

紙面の都合上、配付版学校だよりに掲載できなかった朝田裕先生、大原俊子先生、吉岡望先生、土田哲也先生のインタビューの続きです。

◇教員を志したきっかけは何でしたか。

朝田「身近な大人が教育者であったこと。そして、「毎日違う生活をしたい」という自分の夢があったことです。私自身、小中学校の生活が楽しかったので、教員になりたいと思うようになりました。子ども達が毎日違う表情を見せてくれるので、自分の夢に合うと思いました。でも、大学生の時にはこのままの自分では子ども達の前には立てないと思い、休学し、アルバイトで資金を貯めて、海外に行く経験をしました。」

土田「私も身近な大人が教員だったことが一つのきっかけです。それと歴史学を学びたかったので、学べる学校に進学しました。教員になろうと決意したのは、教育実習です。私の予想を超える子ども達の考えや表現に触れ、感動しました。」

大原「私の場合は少し現実的な話になるのですが。高校生の時、いよいよ進路選択が迫られました。その頃の私は、学校を卒業したらずっと仕事を続けたいと思っていました。そして、小さい頃から学校が大好き、楽しいと思っていたので、教員になるという目標を持つようになりました。当時、仕事を続けている女性があまり身近にいませんでした。一方、教員には女性が多くいましたから、やってみようと考えました。」

吉岡「私は今思えば単純なきっかけなの。小学校低学年の頃のことで、当時の教頭先生が、私に目線を合わせて「おこやねー。」と頭をなでてくれたんです。元気にあいさつをしたか、何かをがんばったからだったと思います。そのことがずっと忘れられなくて、教員になろうと決めました。もちろん、その他にも様々な夢を持ったこともあるけれど、最終的にはやっぱりその教頭先生の思い出が頭を離れなかったですね。」

◇朝田先生と土田先生は、ご家庭では子育て真っ只中ですね。何か子育てエピソードを聞かせてもらえますか。

朝田「子どもと一緒に何かを経験できることが楽しいです。それはどこかに出かける時もそうですし、家の生活の中でもそうです。「ホテルが光るのはどうして。」という疑問にはドキリ。家では野菜や果物も育てていますが「こっちのラズベリーの方がおいしいよ。」と、形や色を見ただけで味が分かることに驚き。そうした一つ一つが楽しいです。」

土田「私は、育児は妻に任せきりなところがあって……。情けないエピソードならあります……。まだ上の子が乳児だった頃、妻が友人の結婚式に参列するために留守にすることがありました。私と赤ちゃんとで留守番をするわけです。泣き始めたらあやす、まだ泣き続けたらミルクを、それでも泣き止まなければおむつの確認。その繰り返しで何とかかなると思い、「行ってらっしゃい。楽しんでおいて。」と送り出しました。もう結末は予想できますよね。結局、子どもが発熱してしまい、ずっと泣き止まず、妻には予定より早く帰宅してもらうことになりました。育児って本当に大変。子育て中のすべての親に「すごいぞ！」と言ってあげたいです。」

◇大原先生と吉岡先生は先輩ママ。子育てエピソードがたくさん出てきそうですね。

大原「私は学生の頃にソフトテニスをやっていたのですが、息子もソフトテニス部に入っていました。息子の練習や試合を見に行くことが楽しみでした。ゴールデンウィークのすべてが練習や遠征。でも楽しかったですね。楽しいことも悔しいことも共有できました。」

吉岡「私の思い出は子どもが保育園の時の運動会。大玉ころがしリレーがありました。私と息子は第一走者。何としても一位になって次にバトンパスしたいと思い、つい本気に。息子のことを引きずるようにして大玉を転がしました。一位で次の走者にパス。「よしっ！」と思ったのですが、他の親子を見るとにこやかに談笑しながら親子で転がしていました。「しまった……。」長子を育てていた時は、必死なんですけど、失敗することもありました。いろいろ初めてだから仕方がないですね。」

楽しいエピソードを聞かせてもらいました。保護者の皆様も共感される部分もあるのではないのでしょうか。

